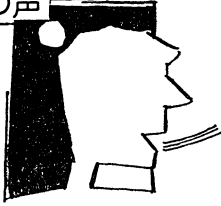


## 会員の声



### 「会誌と論文誌の分冊化について」

会員番号 740788

新年号を見てオヤッと思った。頁を繰ってみて若干の不満の湧きあがるのを抑えられなかった。第1の不満は論文が会誌に載っていない事、第2の不満は論文誌を購入するには更に会費を徴せられる事、第3の不満はこのような重大な決定に際して意見を問われなかった事である。そこで以前の号を調べてみると昨年12月号に今回の処置は会誌を会員みんなのものにするためであるというような記事があった。

会員みんなの総意という事であれば詮方あるまいところだが、しかしながら、同僚数人と話し合ってみると彼等もまた同様の不満を抱いていることを知った。そこで、面倒ではあるがこの一文を草して、願わくば会員諸兄姉に今回の会誌論文誌の分離について考えていただきたいと思った次第である。

私の危惧するのは学会および会誌のあり方についての基本的見解において、我等と会員みんなの間に相違や誤解があるのではないかということである。我等の見解では ① 学会費は無暗に高くあってはならない。(ACM と比べてみると良い) ② 学会誌は論文発表のためにある ③ 特集や解説は出来るだけ bit や日経エレクトロニクス等の商業誌に委ねるべきである ④ 会誌運営は重要な事業であるから、その変更においては全会員の意見を問うべきである。といったものである。

会員諸兄姉はどうお考えであろうか。この「会員の声」欄は紙面も少なく十分に意を尽せないの、あるいは論旨不明瞭のところもあるかと思うが、会員皆様の御高見を俟つ次第である。

### 「会誌と論文誌の分冊化について」 に対する編集理事からのお答え

御意見ありがとうございます。

学会誌が論文発表のためにあることに異論はありませんが、特集や解説も、多くの会員へのサービスとして、それに劣らず重要なものであると考えます。その両者を充実させるため現在の形態をとることにしました。その我々の考えは本誌第 20 巻 1 号 (本年 1 月) の第 1 頁で述べましたが、それに到る過程を会員の皆様に十分お知らせしなかった点を反省し、ここに簡単に報告いたします。

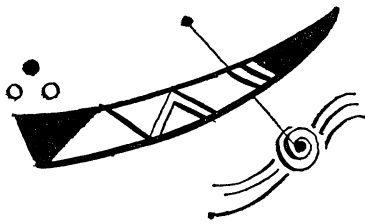
論文誌と解説誌の二本立の構想は、昭和 51 年の第 17 回全国大会に於ける当時の北川会長のあいさつ(本誌第 18 巻 2 号に掲載)の中でふれられており、ついで、第 18 巻 7 号掲載の「会誌の変更について」と題する石井編集担当常務理事の記事の中で論文誌の分離発行を検討して行く予定であると述べられています。最終的にはアンケート調査をし、下記の結果を得て 52 年 9 月の理事会で、54 年 1 月から分冊化することに決定いたしました。

アンケート数 650(通), 回答数 229				
分冊化	論文集発行希望		論文集購入	
賛成	194	月刊	93	希望 156
反対	32	隔月刊	113	無し 73
他	3	他	23	

論文誌創刊の件を緑のページでお知らせしたのは 53 年 8 月号からです。理事会での議論や決定をもっと早くお知らせすべきであったかも知れません。今年からは本誌に理事会の報告を載せることにしましたのでそれも見ていただければ幸いです。

本会の会費はたしかに安いとはいえないかも知れません。しかし現在の会費でも財政が苦しいことをお察し下さい。収入を増すためには会員をふやすこと、本誌に広告を多く入れ広告収入をふやすことなどが考えられますが、そのいずれも本誌が「皆に読んでもらえる」ものであることが前提になります。それもまた論文誌を分離して解説を充実しようとした大きな理由です。

## 欧文誌アブストラクト



### ■ An Overview of Reliable Business Systems in Japan

水野 幸男 (日電東芝)

Vol. 2, No. 1 (1979)

最近、コンピュータの利用は社会的に重要なシステムであるとか、企業にとって、その存立にかかわるような面にも利用され、高度な信頼性が要求されるようになってきている。この報告では、日本におけるコンピュータの利用状況を述べ、特に、信頼性を向上させる具体的な手段としてどのような手段が取られているかを述べている。コンピュータシステムの信頼性を中央処理装置、ソフトウェア、通信回線、端末機の面から眺め、それぞれの対策について論じている。更に、自然現象、物理的な侵害に対する事実とそれに対して取られている対策およびその効果について言及している。自然現象による侵害ないし、破壊の例として、宮城沖地震によるコンピュータ被害の状況を報告し、その対策について述べている。また、コンピュータ技術の面から信頼性向上策としてどのような考慮が必要かについて論じ、最後に、信頼性を高めるための投資とその被害とのバランスを取る事が大切であり、その基本的な考へ方と方法について論じている。

### ■ Realizing High Reliability in Japanese Banking Systems

加藤 栄護 (富士通(株))

Vol. 2, No. 1 (1979)

日本のオンラインバンキングシステムは、個別の銀行においてばかりでなく、NCSシステムや金銀システム、銀行間提携によるインターバンク取引により企業や消費者の経済活動に深く根をおろしている。

そのため、システムの信頼性は、非常に高いものが求められ、あらゆる努力によって実現してきた。

本稿では高信頼性の実現についての対策を、正確な

データ処理、システムの処理能力、障害対策および安全対策という4つの観点から述べる。

### ■ A Reliable Production Control System in Iron and Steel Industries

—The Case of Wakayama Steel Works: WODAS-I—

磯野 昌弘 (住友金属)

Vol. 2, No. 1 (1979)

WODAS-I (Wakayama Online Database System-I) は、現在住友金属和歌山製鉄所で稼働中の大規模な生産管理システムで、オンライン及びデータベース機能に独自の創意工夫が盛り込まれた世界でも最先端の効果的な統合システムです。

1973～1976年の約4年間をかけて、NECと協同で開発したこのシステムは、

1. 情報の有機的利用の拡大
1. システム運用効率の向上
3. 高信頼性の確保

という3つの狙いを見事に実現し、品質・歩留の向上、余剰品の減少、省力・省エネ、納期短縮等製鉄所の経営効率向上の各般に亘って寄与しております。

本稿では、WODAS-Iの信頼性が中心であります。高信頼性実現の必要性・具体方法等の理解を助けるために、

1. 製鉄所の概要 (システムの対象)
2. WODAS-Iシステムの概要
  - ・開発の経過及び必要性
  - ・特徴及び効果

も併せて述べ、参考までにシステムの拡張性についても紹介致します。

### ■ The Seat Reservation System in Japanese National Railways

山本 哲也 (国鉄), 鴨川 和正 (日立)

Vol. 2, No. 1 (1979)

国鉄最初の座席予約システム MARS 1 が稼働開始したのは昭和35年であり、その扱い座席数は1日2,000であった。以来15年余の間に、指定座席数は1日70万に増大した。この間の輸送量の増加と指定座席の増大に対処するため、MARS 101～104 が開発稼働して来た。昭和47年には MARS 105 が過去の経験を踏まえて、約4年の開発期間をかけて完成し、昭和48年1月に、これまでの MARS 101～104 は MA-

RS 105 にすべて置換えられた。その後新幹線博多開業に伴い、容量として1日100万座席、2カ月前予約可能にまで増強され現在に至っている。このシステムは国鉄の指定座席をすべて扱っていることから非常に高い信頼性が要求されている。本紙では MARS 105 の機能と特長を述べ、システムダウンの防止、ダウンタイムの減少等、信頼性向上へのシステム設計について述べる。又稼働開始後約4年間の中央装置のダウン回数、ダウンタイム及び原因、ソフトウェアフェイリアのような動作実績データについて述べ、これらデータと設計目標値との比較分析を行った。結果十分な信頼性を確認している。

## ■ A Distribution and Information System in the Food Industry

—The Case of Ajinomoto Co., Inc.—

河野 利通 (味の素(株))

Vol. 2, No. 1 (1979)

味の素(株)は、戦前より、各種食品流通ルートを洩れなく使用し、強力な商品の末端到達力を維持してきた。戦後の著しい経済成長により、消費材の大量生産、大量消費が定着し、当社も、加工食品の分野で、業務範囲の拡大と量的拡大を果してきた。これに伴い、流通に関する複雑性は、著しいものとなった。このような環境の中で、流通情報システムに要求される役割は、次の2点に要約される。

- 1) 効率的な物流を実現させる：物流機能をメーカーが果すケースが多く、また、食品を扱っているため、常に新鮮さが要求される。
- 2) 商取引データの信頼性の向上：一方、商取引は、膨大かつ複雑な流通ネットワークを使用し、物の流れとは別個に、コンピュータ出力資料により、流通ネットワークの各ルート、各店に伝えられる。

1968年から、コンピュータ化されていたが、上述の要請に対しては欠陥も多く、1976年にオンライン化され、現在は、全国をカバーしている。

システムの第1の特長は、極カリアルタイム性を避け、毎日、ある時間のポイントに向かって精度を集中して行くように設計されており、全般を把握した後に、主な処理を行うことにより、最も効率の良い物流の方法を出力する。第2の特長は、この全国オンライン・システムを、シンプレックス・システムの上で運用していることである。ハードウェアの増強に越したことはないが、システムの信頼性は必ずしも、ハードウェアの信頼性とは一致せず、システム設計上及び運用上の工夫により、安価な投資でも、勝れたシステム信頼性確保の手段になり得る。

本文では、社会における企業全体での信頼性確保のための、システム設計上及び運用上での工夫について、味の素(株)での流通情報システムのケースを述べている。

---



---

## IFIP の ペ ー ジ

---



---

### IFIP NEWS (No. 3 December, 1978) 内容紹介

#### 理事会と総会

1978年9月にオスロで、ノルウェー計算機学会の主催で IFIP が開かれた。とくに IFIP 活動のうち、もっとも大切な technical work の展望につき、期間中に各 TC, WG の委員長と理事との会合であった。理事会、総会の主要審議事項は次の通りであった。

① UNESCO と IBI により、8月28日～9月6日にスペインで共催された SPIN (Strategies and Policies for Informatics) に IFIP を代表して出席した Bobillier 会長から「同会議の主要議題である発展途上国への Informatics の最大援用について、IFIP が大きく貢献を果していることが認められた」旨報告があり、今後 R. Tanaka 元会長・現国際連絡委員長が、UNESCO と協力することとした。

#### ② 会員への加盟、委員の新任

正会員：イラク、チュニジア、アルゼンチン3国の加盟の承認（計37国となった）

賛助会員：Int'l Association for Statistical Computing

個人会員：D. Chevion (イスラエル)

理事会：副会長 安藤 馨 (日本)、総務 O. Zich (オーストリア)、財務 J. Tuori (フィンランド)

評議員：R. C. de Oliveira (ブラジル)、J. M. Bennett (豪州)、G. N. Boyd (カナダ)、L. Iliev (ブルガリア)

#### Technical Committees (TCs)

多くの時間を割き、IFIP の Technical work をしている9つの TC, 33の WG の問題を討議した。いずれにしても、各 TC, WG には積極的中心メンバーがいるが、余りに多くの国が、TC に代表を送らず、送っても何の作業もしないどころか、手紙を出しても返事も寄越さない。各国の加盟学会は、それぞれの TC, WG で自国がどのような役割をしているかチェックするよう求められた。各 TC の活動概況は次の通りである。

① TC 2 (Programming) は、1978年末に、Program-

ming Methodology の本を刊行することが要請された。

② TC 3 (教育) の委員長は、P. H. Wolber 教授の代りに、J. Hebenstreit 教授が、1979年1月から新任された。

③ TC 4 (Information Processing in Health Care and Biomedical Research) については、1979年1月から、会計上のみ IFIP の監査下に SIG として、IMIA (Int'l Medical Informatics Association) として、発足することとなった。

④ TC 5 (Computer Applications in Technology) では、Computer in Industry (季刊) の創刊が望まれた。また WG 5.5 (Continuous Manufacturing) の終了と WG 5.7 (Automation of Production Planning and Control) の新設が承認された。

⑤ TC 6 (Data Communication) では、Local Network に関する WG 新設の可能性につき検討中。

⑥ TC 7 (System Modelling and Optimization) の委員長が A. V. Balakrishnan 教授から 1979年中に J. Stoer に交替することとなった。

⑦ TC 8 (Information Systems) は、1979年に2つの Working Conference (WC) の関係と、ニュースレターの発行を予定している。発展途上国のための Information Systems WC 開催も承認された。

⑧ TC 9 (Computers and Society) では、1979年6月にウィーンで第2回 Human Choice Computers 会議の最後の準備に入っている。

⑨ 最も新しく設立された TC 10 (Digital Systems Design) では、1979年9月にロンドンの Euro-IFIP 80 に関連して、Reliable Computing and Fault Tolerance の WC 開催の予定。

#### IAG

IFIP 最初の SIG である Applied Information Processing では、会計上うまく運営され、Information and Management 誌が首尾よく刊行された。

**Euro-IFIP 80** (IFIP NEWS No. 2 参照)

#### IFIP Congress 80

第8回世界コンピュータ会議 (1980年10月、東京、

メルボルン)では、ほとんどのメンバー学会で、連絡責任者と、旅行代理店を選んだ。

テーマは Challenges of a Computer Presence とし、論文申込み締切りを本年12月1日とした。プログラム委員長は BCS の F.H. Sumner 教授、副委員長はソ連の A.P. Ershov 教授である。

なお、Medinfo 80 (Congress 80 前に東京開催)の論文募集も行われている。

### IFIP Compact Journal

総会で、North-Holland 社から専門的調査研究活動を1,000字にまとめた小論を集めた journal の発行の好意的提案があった。まず手始めとして、同誌は、正式の雑誌とするが、できるならば、on-line version for access via VDU's によることが計画された

### Conference Reports

(1)「Computer Impact に関するコペンハーゲン会議」は去る10月、Marienlyst でオランダ IAG が開催し、12カ月175名が出席した。主題は社会的要因と労働組合など組織と個人に及ぼすコンピュータの影響であった。プログラム委員長は Bjorn-Andersen 教授、プロシーディングは1979年3月に発行の予定。

(2)「Computer Assisted Learning の WC」を来る9月3日~7日にロンドンで TC 3 が開催の予定。

### 出版物案内

*Modelling, Identification and Control in Environmental Systems*

Proceedings of a Working Conference, August/September 1977

G. C. van Steenkiste, Editor

1046 pp. (Dfl. 200.00)

*Computer Aid to Drug Therapy and to Drug Monitoring*

Proceedings of a Working Conference, March 1978

H. Ducrot, M. Goldberg, R. Hoigne,

P. Middleton, Editors 458 pp. (Dfl. 110.00)

*Artificial Intelligence and Pattern Recognition in CAD*

Proceedings of a Working Conference, March 1978

J. C. Latombe, Editor 520 pp. (Dfl. 135.00)

*System Modelling and Optimization*

Proceedings of a Working Conference, July 1978

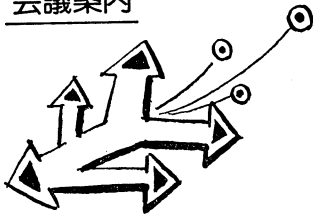
J. Stoer, Editor

Full details of all IFIP publications are available from the IFIP Secretariat.

### 国際会議予告

DATE	TITLE	LOCATION
April 2-6, 1979	Working Conference «Hospital Information Systems» (TC 4)	Capetown, South Africa
April 17-20, 1979	Working Conference «Post Secondary and Vocational Education in EDP and the needs of Commerce, Industry and Administration» (TC 3)	Amsterdam, The Netherlands
April 23-25, 1979	Working Conference «Formal Models and Practical Tools for Information Systems Design» (TC 8)	Oxford, U. K.
April/May, 1979	Workshop «The Architecture of Information Systems» (IAG)	Paris, France
May 14-19, 1979	Working Conference «Evaluation of Effectiveness of Medical Action, Methodology and Experiences» (TC 4)	Bordeaux, France
May 21-23, 1979	4th IFIP/IFAC PROLAMAT Conference «PROLAMAT 79» (TC 5 and IFAC)	Ann Arbor, Mich., U. S. A.
May 29-31, 1979	Working Conference «Data Protection in Health Information Systems II» (TC 4)	Amsterdam, The Netherlands
June 11-13, 1979	Working Conference «The Information Systems Environment» (TC 8)	Bonn, F. R. G.
Sept. 25-28, 1979	Euro-IFIP 79. Major European Conference «Applied Information Technology»	London, U. K.
Sept. 29-Oct. 3, 1980	MEDINFO 80	Tokyo, Japan
Oct. 6-9, 1980 } Oct. 14-17, 1980 }	8th World Computer Congress—IFIP Congress 80—	Tokyo, Japan Melbourne, Australia

## 会議案内



### 《国際会議》

**会議名** TELEINFORMATICS '79  
**開催期日** 1979年6月11日～13日  
**開催場所** パリ (ユネスコ)  
**主催** UNESCO, ICC, CEC (Commission of the European Communities)

#### セッション・テーマ

Impact on organizations, Message systems teleconferencing, CAI, Videotex, Technical issues' Man-machine interaction, Political issues, Standards 他 Case studies

#### パネル討論

Teleinformatics and the office of the future  
 New services for the public

**展示会** パリ郵政省ビル地下会場

**参加費** 4月30日まで 1,200 FF, 以降 1,300 FF  
 なお、6月8日～9日にパリ・ヒルトンホテルで ICC Tutorial が行われる。参加費：4月30日まで 1,200 FF, 以降 1,300 FF。

**会議名** EUROCON '80—4th European Conference on Electrotechnics

**開催期日** 1980年3月24日～28日

**開催場所** Stuttgart, Germany

**主催** EUREL, IEEE, VDE

#### 主要テーマ

Technology of microelectronics, Microelectronics in telecommunications and data processing, Electronics in electrical power systems and control, Electronics and microelectronics in other fields

**論文申込み** 1979年7月31日締切り

**会議名** 第6回人工知能国際会議 (IJCAI-79)

**開催期日** 1979年8月20日～23日

**開催場所** 東京・経団連会館

**主催** 第6回人工知能国際会議組織委員会

**参加費** (論文集, レセプションを含む)

1979年6月30日までの申込: 25,000円

1979年7月1日以降の申込: 30,000円

学生: 15,000円

**問合せ先** Local Arrangements Chairman 西野博二

〒100 東京都千代田区永田町 2-6-1

電子技術総合研究所パターン情報部

Tel. 03(581)0441 内 400

**会議名** Pacific Telecommunications Conference (PTC '80)

**開催期日** 1980年1月7日～9日

**開催場所** Illikai Hotel, Honolulu, Hawaii

#### 主要テーマ

• Data Communications

• Displays & Demonstrations Telecommunication Engineering Economics, Finance, Regulation

• Social Planning and Policy

**論文申込み** full paper (10 ページ以内) のコピー 3部を下記へ送付

Richard J. Barber, PTC '80, Univ. of Hawaii, 2422 Maile Way # 704, Honolulu, Hawaii HI, 96822, U. S. A.

**論文締切り** 1979年7月30日

**国内連絡先** 〒275 習志野市津田沼 2-17-1

千葉工業大学電子工学科

大泉 充郎

Tel. 0474(77)8402

### 《国内》

**会議名** 日本学術会議合同シンポジウム

**開催期日** 54年5月18日 午後1時～5時

**開催場所** 日本学術会議大会議室

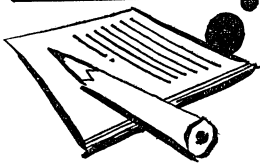
**主催** 電気・電子研究連絡委員会

情報工学研究連絡会

**テーマ** 情報工学の学問体系と今後の研究課題 (分散情報処理システムをめぐって)

〔お詫び〕 第5回 VLDB の論文締切りは3月5日であるものを本誌2月号で、5月5日に間違っ、実際はミスプリにまったく気付かず会告しましたので、改めて訂正し、深くお詫びを申しあげます。

## 筆者紹介



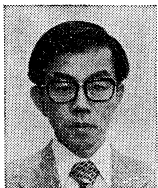
元岡 達 (正会員)

昭和4年生。昭和27年東京大学工学部電気工学科卒業。32年同大学院修了。同年東京大学工学部助教授となり、現在同学部教授。主として電子計算機の記憶装置、高速論理回路、論理設計の自動化などの研究に従事。最近は、計算機の複合システム、新しい計算機の構成法などに興味をもっている。工学博士。電気学会、電子通信学会、IEEE各会員。本会元常務理事。



関野 陽 (正会員)

昭和17年生。昭和39年名古屋大学工学部電気学科卒業。41年同修士課程修了。三菱電機(株)を経て、43年米国MIT大学院博士課程に留学し、計算機の性能評価を研究、同時に、同大学Project MACにてMulticsシステムの開発に従事。47年Ph. D. IBMワトソン研究所を経て、49年より日本電気(株)コンピュータ技術本部に勤務、計算機方式の開発に従事、東工大非常勤講師、電子通信学会会員。



高平 敏 (正会員)

昭和11年生。昭和36年東北大学工学部電気工学科卒業、同年日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所入所。以来、電子交換機ソフトウェア、DIPS情報処理システムソフトウェア、分散処理計算機アーキテクチャ等の研究開発に従事。現在、横須賀電気通信研究所データ処理研究部データ応用研究室長。電子通信学会、ACM各会員。



村岡 洋一 (正会員)

昭和17年生。昭和40年早稲田大学理工学部電気通信学科卒業。昭和46年米国イリノイ大学計算機学科博士課程修了。この間、並列処理計算機Illiac IVのソフトウェア開発・並列処理アルゴリズムの研究等に従事。昭和47年日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所に入所。以来、データ通信方式(DIPSシステム)の研究実用化にたずさわっている。Ph. D.



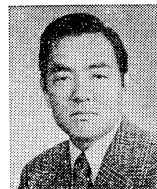
植村 俊亮 (正会員)

昭和16年生。昭和39年京都大学工学部電子工学科卒業。昭和41年同大学院修士課程修了。同年工業技術院電子技術総合研究所(当時電気試験所)に入所し、現在同所ソフトウェア部言語処理研究室主任研究官。昭和47年丹羽賞。昭和49年米澤賞。工学博士。データベースシステム、自然言語(とくに日本語)処理に関する研究に従事。著書「入門COBOL」(共著、オーム社)電子通信学会、ACM各会員。



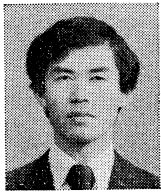
杉本 正勝 (正会員)

昭和17年生。昭和40年東京大学工学部電気工学科卒業。昭和42年東京大学工学部電子工学科修士課程修了。昭和45年同博士課程修了。言語処理用の計算機アーキテクチャを研究。工学博士。同年より昭和47年7月まで日本ソフトウェア(株)でPL/Iプロセッサの設計に従事。昭和47年9月、富士通(株)入社。計算機アーキテクチャ、ファームウェア、ソフトウェア・エンジニアリング、自然言語処理システム等の研究に従事。現在、開発事業部第一方式部計画課。電子通信学会会員。



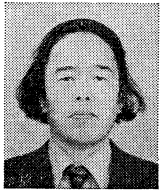
相磯 秀夫 (正会員)

昭和7年生。昭和32年慶応義塾大学大学院修士課程(電気工学専攻)修了。大阪大学工学部助手を経て、工業技術院電気試験所(現、電子技術総合研究所)に入所、昭和46年慶応義塾大学工学部電気工学教室教授。計算機アーキテクチャ、マイクロコンピュータ、マイクロプログラミングなどの研究に従事。工学博士。電子通信学会、IEEE、ACM各会員。



上林 憲行 (正会員)

昭和27年生。昭和50年慶応義塾大学工学部電気工学科卒業。昭和52年同大学院修士課程修了。現在、同博士課程在学中。機能分散型システム、オペレーティング・システム、データベース処理の観点から高水準計算機アーキテクチャの研究を行っている。電子通信学会、ACM 各会員。



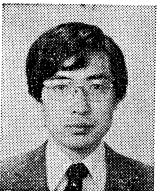
飯塚 肇 (正会員)

昭和14年4月生。昭和37年東京大学工学部応用物理学科卒業。昭和39年同大学院数物系研究科応用物理学専門課程修士課程修了。同年三菱電機(株)入社。計算機設計に従事。昭和41年電気試験所(現、電子技術総合研究所)入所。以来、計算機方式の研究に従事。現在、同所電子計算機部計算機方式研究室長。工学博士(東京大学)。電子通信学会、IEEE、ACM 各会員。



藤井 隼介 (正会員)

昭和12年生。昭和37年東京理科大学理学部数学科卒業。同年通産省工業技術院電気試験所(現、電子技術総合研究所)に勤務。同所電子計算機部においてオペレーティングシステム、計算機方式の研究に従事し現在に至る。電子通信学会、ACM 各会員。



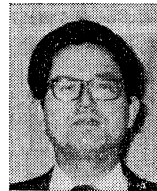
古谷 立美 (正会員)

昭和22年生。昭和46年成蹊大学工学部電気工学科卒業。48年同大学院修士課程修了。同年通産省電子技術総合研究所入所。現在同所電子計算機部計算機方式研究室勤務。計算複合体や高級言語計算機の研究に従事。電子通信学会、ACM 各会員。



高橋 義造 (正会員)

昭和7年生。昭和30年京都大学電気工学科卒業。東京芝浦電気(株)に入社。同社鶴見研究所、中央研究所でアナログ計算機、デジタル微分解析機、原子炉の計算機制御の研究を行う。この間昭和36年より一年間MITに留学し、眼の調節作用の研究を行う。昭和40年より50年まで同社電子計算機事業部で大型、中型、小型機、ミニコンのシステムプログラムの開発を担当。昭和51年より同社総合研究所で並列処理の研究、パターン情報処理システム総合システムの開発に当る。昭和52年11月同社を退社し、12月より徳島大学情報工学科教授。工学博士。電気学会、日本ME学会、ACM 各会員。



吉村 晋 (正会員)

昭和20年生。昭和44年名古屋工業大学電子工学科卒業。昭和51年東北大学院電気及び通信工学専攻、博士課程修了。同年、東京芝浦電気(株)入社、総合研究所勤務。この間、大学院在学中は主としてオートマトン、グラフ理論、言語理論の研究を行う。東芝入社後、プログラミング言語、コンパイラ、並列処理の研究開発に従事し、現在に至る。工学博士。電子通信学会会員。



坂井 利之 (正会員)

大正13年生。昭和22年京都大学工学部電気工学科卒業。同大学大学院特別研究生。昭和28年以降同講師。助教授を経て昭和35年京都大学教授となり現在に至る。音声、画像、自然言語などのパターン情報処理と、コンピュータ・ネットワークの開発に従事。工学博士。電子通信学会など6学会各会員。



北澤 茂良 (正会員)

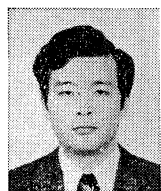
昭和24年生。昭和46年京都大学工学部電子工学科卒業。同51年同大学大学院博士課程修了。同年京都大学工学部助手となり現在に至る。コンピュータ・ネットワーク、パターン情報処理の研究に従事。京都大学工学博士。電子通信学会会員。





川合 英俊

昭和9年生。31年北海道大学理学部物理学科卒業。同年気象庁に入る。36年電気試験所(現、電子技術総合研究所)に出向。以来計算機の研究に携わる。現在電子技術総合研究所パターン情報部数理基礎研究室室長。この間、大形計算機の設計製作、TSS、コンピュータグラフィクス、計算機の性能測定、コンピュータ・ネットワークなどの研究に従事。研究システムEPICSの運用にあたる。電子通信学会、ACMの各会員。



浅野正一郎(正会員)

昭和22年生。昭和45年東京大学工学部電子工学科卒業。昭和50年東京大学大学院博士課程修了。工学博士。東京大学大型計算機センターを経て、現在東京大学宇宙航空研究所講師。交換接続回路網、コンピュータ・ネットワーク、情報伝送制御手順、飛行体制制御計算システムなどの研究に従事。電子通信学会会員、本学会コンピュータ・ネットワーク研究会幹事。



久保 勲(正会員)

昭和17年生。昭和40年東京大学工学部計数工学科卒業。同年日本電信電話公社入社。データ通信本部発足時よりシステム開発に従事。科学技術計算システム(DEMOS)の開発を行った後、フィールド・サービスを担当。現在、データ通信本部において公衆データ通サービスの機能拡充計画等の企画業務を担当。



渡部 和

昭和5年生。昭和28年京都大学工学部電気工学科卒業。同年、日本電気(株)に入社。伝送回路網の設計、計算機の開発、コンピュータの応用技術、回路のCADの研究開発等をへて、現在オフィスコンピュータの開発に従事。情報処理小型システム事業部長。工学博士。著書、「伝送回路網の理論と設計」等。電気通信学会福田記念学術奨励賞、論文賞、著述賞受賞。電気通信学会、IEEE各会員。



祖父江博臣

昭和16年生。昭和43年カリフォルニア大学工学部電子工学科卒業。現在日本電気(株)情報処理小型システム(事)販売促進部勤務、マルチワークシステムやオフィスコンピュータによる分散処理システム等の市場調査及び販売促進活動に従事。



平子 叔男(正会員)

昭和6年生。昭和29年東京都立大学工学部電気科卒業。同年、(株)日立製作所に入社。以来、電話交換機、列車無線電話、座席予約システム、証券情報システムなどの開発設計に従事し、更にコンピュータ・ネットワークの研究に従事。現在同社システム開発研究所、主管研究員。電子通信学会会員。



平井 浩二(正会員)

昭和15年生。昭和39年早稲田大学電気通信工学科卒業。(株)日立製作所大みか工場計算制御設計部主任技師。制御用計算機システムの開発に従事。電気学会会員。



寺田 松昭(正会員)

昭和23年生。昭和45年岡山大学工学部電気工学科卒業。同年、(株)日立製作所に入社。現在、同社システム開発研究所にて、コンピュータ・ネットワークの研究に従事。



山本 茂(正会員)

昭和14年生。昭和38年京都大学工学部電子工学科卒業。昭和40年同大学院電子工学専攻修士課程修了。同年(株)横河電機製作所に入社。現在同社システム事業部システム技術部3G係長。主に、制御用計算機システムのオペレーティングシステム、プログラミング言語、標準アプリケーションプログラムの開発に従事。特に昭和47年頃より分散総合制御システムの開発設計に主力を置いている。計測自動制御学会会員。



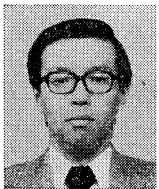
若狭 裕 (正会員)

昭和17年生。昭和40年東京大学工学部電子工学科卒業。同年(株)横河電機製作所に入社。現在同社システム事業部システム技術部3G係長。主に、制御用計算機中央処理装置ハードウェアの開発・設計に従事。特に昭和47年頃より分散形総合計装制御システムの開発設計に主力を置いている。電子通信学会、計測自動制御学会各会員。



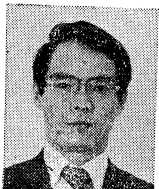
八木 正博 (正会員)

昭和13年生。昭和36年早稲田大学第一理工学部数学科卒業。同年、東京芝浦電気(株)に入社。経営情報システム部にて、社内科学技術計算の教育、計算機室の運営管理等に従事。その後、電子計算機事業部に移り、電総研EPICSシステムの保守、EPICS用LISP 1.6の開発等の大形機ソフトウェアを経て、現在はミニコン、オフィスコンピュータの応用プログラム開発に従事。東芝青梅工場応用ソフトウェア部所属。



田中 純一

昭和22年生。昭和46年東京理科大学工学部経営工学科卒業。同年東京芝浦電気(株)へ入社。航空情報メッセージ交換システム、航空運航管理システム、広告情報管理システム等の広域オンラインシステムの開発に従事し、現在青梅工場勤務。オフィスコンピュータの各業種の応用ソフトウェアの開発を行っている。



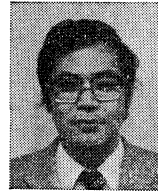
足立 勝

昭和12年生。昭和40年京都大学工学部数理工学科卒業。同年より旭化成工業(株)にて情報処理業務に従事。特にシステムプログラム及び通信ネットワークの開発を担当。現職 システム管理部技術担当総括、東京コンピュータ室長。



長尾 篤志

昭和22年生。昭和46年大阪大学基礎工学部制御工学科卒業。昭和48年同大学院修士課程修了。同年旭化成工業(株)入社。主に通信ネットワークの開発を担当。現在システム管理部技術担当。



中村 充男

昭和13年生。昭和39年東京大学工学部計数工学科卒業。同年より旭化成工業(株)にて情報処理業務に従事。特にシステムプログラム及び通信ネットワークの開発を担当。現職システム管理部大阪コンピュータ室長。



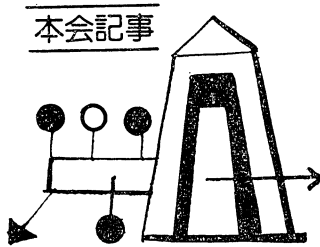
名和小太郎 (正会員)

昭和6年生。昭和31年東京大学理学部物理学科卒業。工学博士。昭和31年石油資源開発(株)入社。同35年旭化成工業(株)入社。同52年(株)旭リサーチセンター入社。現在に至る。



波多野 稜

昭和12年2月生。昭和34年電気通信大学通信別科卒業。現在日本郵船株式会社情報システム室システム統轄チーム(計画・システム管理)。



## 本会記事

### 第 221 回理事会

日時 昭和 54 年 3 月 15 日 (木) 17:30~20:30  
 場所 機械振興会館 6 階 65 号室  
 出席者 穂坂会長, 尾関, 坂井各副会長, 井上, 田中, 嶋村, 中田, 山田各常務理事, 木村, 三浦各理事, 佐藤東北支部長, 佐川委員 (20 周年記念事業実行委員会)  
 (事務局) 菅谷事務局長, 坂元局長代理, 田原課長

#### 議 事

1. 総務関係 (井上常務理事, 木村理事)
  - 1.1 昭和 54 年 1 月期に 51 回 (うち規格 26 回) の会議を開催した。
  - 1.2 昭和 54 年 3 月 14 日 (現在) の会員数  
 正会員 12,085 名 (前回より 940 名増)  
 学生会員 604 名 (前回より 6 名減)  
 賛助会員 271.5 口 (169 社)
  - 1.3 昭和 54 年度第 20 回通常総会について  
 54 年 5 月 17 日 (木) 午後 13 時 30 分から機械振興会館で, 53 年度事業報告と決算ならびに 54 年度事業計画と予算を中心議題として行い, また特別講演を大野前副会長にお願いすることとした。
  - 1.4 昭和 53 年度決算見直しについて  
 資料「昭和 53 年度収支総括表 (54 年 2 月末現在)」により, 本年度末決算見直しにつき説明があった。
  - 1.5 昭和 54 年度役員選挙について  
 役員選挙用紙に記載の内容につきチェックした。
2. 編集関係 (田中, 中田各常務理事, 後藤, 榎本, 首藤各理事)
  - 2.1 会誌「情報処理」について  
 資料「第 17 回会誌委員会報告」により, 3 月 14 日開催の同委員会の審議事項につき報告

があった。第 20 巻 3 号, 4 号および 6 号の編集状況ならびに編集規程, 会誌委員会運営細則および編集細則を現在作成中である旨, 説明がありました。

#### 2.2 論文誌について

本日論文誌委員会を開き, 「情報処理学会論文誌」第 20 巻 3 号 (5 月号) の編集を行った旨説明があり, 了承された。

#### 2.3 昭和 53 年度論文賞について

論文賞選定委員会 (委員長 坂井副会長, 以下委員 20 名) では下記 2 件 (6 名) の論文を本年度論文賞として推薦決定した旨報告があり承認された。

- 国語辞書の記憶と日本語文の自動分割 (「情報処理」第 19 巻 6 号 (長尾, 辻井, 山上, 建部))
- Analysis of Parallel Hashing Algorithms (「JIP」第 1 巻 1 号 (井田, 後藤))

#### 3. 事業渉外関係 (嶋村常務理事, 筑後, 石井, 三浦各理事)

##### 3.1 20 周年記念事業実行委員会報告

53 年度活動結果および 54 年度計画につき, 資料により佐川委員から詳細に説明があり, 異議なく了承された。55 年 5 月 20 日の記念祝典ならびに 5 月 21 日~23 日の記念大会の準備は, 54 年度中にすべて完了する必要が確認された。

##### 3.2 第 20 回全国大会について

去る 14 日に開催された第 20 回全国大会第 2 回委員会の審議決定事項につき, 説明がありました。とくに, 特別・招待・パネルの各講演のテーマについて, 各理事および調査研究運営委員会各委員に提案いただくこととした。

##### 3.3 54 年度シンポジウムとして, 下記 2 件の開催が承認された。

- ソフトウェア製品生産管理 (54 年 12 月中旬 2 日間を予定)
- オンライン情報サービス (54 年 10 月末か 11 月初に 1 日を予定)

#### 4. 調査研究関係 (川端常務理事, 近谷理事)

##### 4.1 CAD/CAI 研究委員会 (委員長 穂坂 衛) を 54 年度に新設したい旨, 調査研究委員会に申出があったので, 同委員会の議を経, 理事会の承認をえたうえ, 発足することとした。

##### 4.2 規格委員会の 53 年度決算および 54 年度予算

(案)につき、去る3月6日開催された同委員会提出資料により説明があった。規格委員会の学会でのあり方が、郵政省第4種認可などに誤解を与える点から、規格委員会としての学会での本来のあり方につき、種々意見が出され再検討することとした。

#### 5. 国際関係 (山田常務理事, 矢島理事)

##### 5.1 第3回日米コンピュータ会議

日本側会計収支の結果出た剰余金を米国の要請にこたえて一応送金することを了承した。

##### 5.2 欧文誌 JIP は、海外販路拡張のため、IPJSと直接同意を交わした海外関連学会員に、本学会員に準じた価格で頒布することとした。

### 講演会, 講習会

○K. E. Iverson 博士 (IBM) の学術講演会 (3月22日(木)13:30~16:30, 於機械振興会館地下ホール)

APL プログラム言語の関数と作用子を中心として、その設計思想と今後の発展につき講演があったが、会場一杯 (約200名) の参加者と、講演後の若い会員の熱心な質問で、学会らしい熱気あふれる講演会となった。とくに2月に米国で同博士と会って、講演内容の打合せを行い、さらに当日の通訳をいただいた本学会元常務理事 竹下 亨氏 (日本 IBM) に謝意を表します (なお、本講演の内容は、竹下氏より翻訳原稿を得て近く「情報処理」に掲載の予定です)。

○「コンピュータ・ネットワーク技術とその応用」に関する講習会 (3月19日(月)9:30~17:00, 於都道府県会館別館211A号室)

コンピュータ・ネットワーク研究会 (主査 高島堅助) でプログラム編成を行い、猪瀬教授の概論に始まり、国内・国際の実績と新技術動向、標準化動向につき、各1時間ずつ講演が行われた。時宜を得た講習会のため約170名の参加者をえたが、他方講演時間の短さをカバーするために、できるだけ詳細なテキスト (本文76ページ) を用意し、講習会の実効をあげることができた (テキストが30部残余があります。入会の方は定価2,500円, 送料200円でお届けします)。

### 3月編集関係委員会

#### ○第17回会誌委員会

3月14日(水)18時から機械振興会館6階64号室で開催された。

(出席者) 田中, 中田各常務理事, 相曾, 石原, 高

井, 鍛冶, 杉本, 志村, 中野, 田中, 竹内, 発田, 原田, 藤田, 山本, 吉村, 戸川, 渡辺, 田村各委員 (事務局) 坂元, 山田, 井出

「情報処理」4月号~7月号の目次案を審議した。また、昨年9月に提案された編集規程にもとづき、会誌委員会運営細則と会誌編集細則につき審議した。

#### ○第17回論文誌委員会

3月15日(木)14時30分から機械振興会館515号室で開催した。

(出席者) 田中常務理事, 片山, 山下, 名取, 内田, 三上

(事務局) 井出, 山田

論文査読状況報告ならびに論文誌委員会規程と同運営細則の審議を行った。

#### ○会誌編集幹事会

昭和54年度を迎えるに当って、「情報処理」の編集を強化するために、会誌担当理事ならびに編集小委員会 (WG) の各主査が、3月1日(木)18時から規程にもとづく委員の交替, 新任, ならびに会誌編集に関する規程を審議した。

### 各種委員会 (1979年2月21日~3月20日)

○2月21日(水) RBS 講習会

○2月22日(木) コンピュータ・ネットワーク研究会・連絡会, 医療勉強会

○2月23日(金) 計算言語学研究会

○2月26日(月) IFIP 80 展示委員会

○3月1日(木) データベース理論研究委員会

○3月3日(土) 記号処理連絡会

○3月5日(月) ALGOL 委員会

○3月8日(木) データベース管理システム研究会

○3月9日(金) 計算機システムの解析と制御研究会, 医療情報処理研究会

○3月10日(土) 医療情報処理研究会

○3月13日(火) IFLP 80 実行委員会

○3月16日(金) 記号処理研究会連絡会, 電子装置設計技術研究委員会

○3月19日(月) コンピュータ・ネットワーク講習会

○3月20日(火) イメージ・プロセッシング研究会・連絡会

〔規格関係委員会〕

○2月21日(水) SC 16

○2月22日(木) SC 16/TG 3

- 2月23日(金) SC 5/F, SC 15
- 2月27日(火) SC 16/TG 1, JIS COBOL
- 2月28日(水) SC 8, SC 6/TG 2, JIS 用語(S)
- 3月1日(木) JIS 用語(H)
- 3月6日(火) 規格委
- 3月7日(水) SC 10
- 3月8日(木) SC 6/WG 3, JIS COBOL, JIS 用語(S), SC 16/TG 打合せ
- 3月9日(金) SC 3, SC 7, SC 16/TG 1, 2, 3
- 3月13日(火) SC 2 Ad hoc
- 3月15日(木) SC 6/WG 3, SC 16/TG 3, JIS 用語(H)
- 3月16日(金) SC 15, SC 16
- 3月20日(火) SC 2, SC 5, SC 6/WG 1, SC 11/WG 3

## 入 会 者

昭和 54 年 3 月の理事会で入会を承認された方々は次のとおりです(会員番号順, 敬称略)

【正会員】馬場啓行, 大黒昭男, 対比地幹雄, 雨宮常喜, 高橋雅昭, 紙谷 進, 増沢友美, 山口 治, 坂井日出雄, 青木 鼎, 篠原明彦, 木下昌男, 宮角良介, 安喜耕一, 伊藤好弘, 三好茂樹, 曾谷勝義, 水野博之, 佐藤 勲, 小田克朗, 来住孝一, 伊東義彰, 大槻正剛, 芳山憲治, 古川靖人, 山下信幸, 岐部秋人, 長谷川昭夫, 森 清治, 八田 孝, 永谷正邦, 佐々木 巧, 山本成美, 矢口仙一郎, 金田恒夫, 山本久光, 池田 栄, 小松 孝, 辻 孝夫, 中島一郎, 下野 暁, 横山 隆, 岩崎 潔, 田原孝博, 厚地政史, 海江田五夫, 牧野和夫, 岡本康成, 内藤義輝, 若月俊彦, 室井幸毅, 前田雄二, 藤田信夫, 小林一博, 島田健三, 倉田福雄, 近藤陽一, 宮野明雄, 島田 濃, 斎藤善実, 竹田 寛, 堀部正広, 中嶋良彰, 高橋淑郎, 塚原邦保, 中南秀雄, 関 省一, 西野雅実, 二宮健次, 中原達男, 高橋東宏, 龍山森雄, 矢野治雄, 徳永威久, 稲垣真次, 泉谷洋三, 伊知地泰, 山本淳三, 原 一成, 竹村一郎, 実宝 昭, 西村弘行, 田代 彰, 杉崎 真, 小沢慎治, 田中 衛, 山口和幸, 平佐和幸, 大西茂樹, 小野裕基, 橋本久雄, 堀田清志, 小藤雅俊, 月岡健一, 石橋文明, 鎌田好郎, 富永正俊, 桑田幹雄, 高野 忠, 坂本紀生, 秋本賢治, 井手大作, 岡林伸紘, 鳥居高志, 阿佐美眞一, 野水宣良, 小野 等, 山岡秀和, 岩田直文, 吉田民生, 月村昭, 山崎和喜, 増岡俊典, 渡辺 修, 金子 稔, 国嶋矩彦, 黒岩憲二, 大野徹夫, 北野雅弘, 浅海裕治, 生

田 修, 内田 泰, 岡田宏文, 寺崎十九夫, 橋 成一, 小谷川政治, 岩崎昭一, 白川 仁, 那倉定幸, 手島和夫, 小出 勝, 松田嘉博, 高野和朝, 渡辺 南, 山田敏郎, 田下佳彦, 佐藤雅春, 相原幹夫, 秋庭英夫, 阿部正平, 荒木照男, 有馬辰雄, 斎藤雅彦, 安藤文夫, 生田克己, 池畑正治, 石崎 功, 石沢正夫, 磯野辰雄, 板久博道, 伊藤武明, 伊藤宏明, 今井芳郎, 檜田定夫, 大道 学, 加藤武功, 加藤良一, 金木康英, 亀井憲二, 川浦 豊, 川岡真斎, 川口重幸, 川向 哲, 北原真木夫, 日下正史, 国武 洋, 久野宗一, 熊谷英徳, 熊谷仁志, 熊澤邦夫, 黒川信近, 小泉 進, 甲野美知雄, 小菅大二郎, 児玉賢二, 後藤龍男, 小宮路史郎, 斎藤一彦, 斎藤尚志, 酒井厚嘉, 酒井 工, 酒見雄二, 真金佳尚, 佐藤正博, 佐山和行, 篠原明巳, 柴田隆秀, 柴田文二, 渋谷陽一, 清水勢津子, 首藤光生, 相山 扶, 高橋俊一, 田口 功, 武川富一郎, 武田邦男, 竹本篤夫, 田中 智, 田中壽裕, 津崎周太郎, 堤 満, 鶴屋富雄, 富田哲男, 友本裕治, 豊岡和夫, 中岡 実, 名取道夫, 西川健太郎, 蓮尾明利, 長谷川智, 畠中正観, 林 克博, 林 正彦, 原田啓輝, 平田佳長, 福井淳, 福島義弘, 古道義成, 松金真司, 三谷 浩, 箕輪良一, 水野鋤司, 茂木一明, 望月国男, 森本正好, 森山宏一, 柳瀬優二, 山岸智彦, 山川 親, 山下好雄, 山田康弘, 山本 裕, 横川 修, 横田和正, 横山哲也, 吉岡有一, 吉村政幸, 若狭修平, 渡辺正弘, 今村茂雄, 小山 澄, 吉川慶一, 松本嘉夫, 佐藤和夫, 高橋恒晴, 築添弘一, 中平宏次, 柴田正和, 中瀬邦夫, 三浦哲雄, 岩田恭幸, 福岡正隆, 滝 純一, 猿渡義彦, 富田恭次, 片岡洋一, 久保芳昭, 小林 亮, 佐藤洋一, 工藤義浩, 久永修治, 佐谷鉄夫, 宇新明道行, 大橋敏郎, 片山 博, 上柴公二, 奥山正彦, 石田壹朗, 山道 隆, 高須利昭, 松本 宰, 折田幸雄, 登家正夫, 春日 功, 細川保治, 守川隆志, 河原 勉, 北邑奉昭, 大塚秀男, 今村二康, 吉川英一, 山本 茂, 奥居 稔, 塚本節男, 塚越 真, 橋本敏昭, 池田博修, 後藤和夫, 羽田野耕一, 木村道弘, 今井文生, 福永忠明, 東輝之助, 小島俊彦, 脇坂知行, 奥泉 博, 長島一雄, 小林茂也, 高久田博, 河村信次, 菅原忠男, 塚 芳昭, 前田幹雄, 松本義弘, 菊地 茂, 江夏則次, 陸田耕吾, 塚田 進, 橋本昌幸, 藤田孝二, 関 英夫, 網島 博, 大橋憲治, 瀬良興紀, 平野 哲, 古川茂雄, 下田又守, 飯島信雄, 清水 豊, 川辺昭久, 長岡迪男, 〔若山郁夫, 坂本隆治, 土橋 篤, 太田 穰, 田中 稔, 棚辺光昭, 日詰尚男, 川添雄司, 南 康夫, 大内康業, 赤堀正芳, 安田 勇,

中川太助, 宮寺利武, 笠原 金, 田代一丸, 栗山政一, 浜田達郎, 難波江麟一, 東 文雄, 鮎川行男, 志田政明, 村上正剛, 那須俊夫, 中山良夫, 西沢庶介, 小島武三, 高梨芳久, 長山久喜, 櫻井 博, 宮本 孝, 木村稔, 悦本忠義, 小又富士夫, 桜井明夫, 田中二郎, 山田 勝, 曾田義春, 宮下武二郎, 浜野紘一, 西沢 護, 渡辺 敏, 桜井洋一, 渡辺 裕, 加藤武雄, 豊岡 勇, 深井 豊, 山田 林, 沼沢俊輔, 齊田 隆, 大谷年雄, 佐藤憲雄, 大仲憲生, 北野敏雄, 西久保利藏, 渡辺一弘, 岩崎 隆, 海口健治, 齋藤徳久, 杉山喬一, 新谷昭二, 岩本敏男, 岡本正博, 吉田 純, 川副武男, 山田裕久, 村田英人, 十倉建二, 藤原英二, 杉田伸博, 伊藤 敏, 六車博昭, 桑原清人, 長澤東四郎, 土師克己, 横山喜一郎, 菅野克明, 有田雄治, 森 成司, 津川昌志, 田中 稔, 鎌田 洋, 佐藤克彦, 岡崎和磨, 岸原良之, 尼木昭治, 池口太加夫, 坂井弘治, 山口雅史, 細谷克也, 大島正司, 長野禎夫, 大道良輝, 村田憲哉, 三上宣昭, 佐藤鐵太郎, 今西義昌, 齊藤正弘, 立和田齊, 清水 弘, 杉本 隆, 村上 弘, 今井一郎, 坂本孝男, 田尻博幸, 戸田賢三, 横谷稠一, 吹原勝義, 高尾樹典, 大村丈則, 北山和男, 高井儀憲, 坂元寛己, 永井修午, 岩佐晴夫, 小雲容行, 赤川長光, 浜田源二, 村井一之, 湯野 勉, 伊地智辰夫, 中嶋岩男, 水内清, 鈴木祐敏, 小池淳二, 野村萱三, 杉本迪雄, 小倉俊一, 池上芳郎, 伊藤裕生, 伊藤行雄, 井上博文, 大野義治, 大山民也, 小高一義, 川久保英昭, 齊藤繁広, 佐野啓太郎, 神事 誠, 鈴木孝雄, 玉置昭平, 長浜正昭, 西沢 隆, 西村英樹, 野村静雄, 服部茂樹, 林春雄, 平田常世, 森山修吉, 八木橋俊夫, 矢野仁嗣, 山内明弘, 山野孝三, 吉場修一, 浦 信秀, 小澤五郎, 小柳津茂, 北村雄生, 塚 勝秀, 高山 由, 藤岡明長, 三舛一男, 宗村俊明, 阿部義雄, 荒木 衛, 入江康博, 末松徳則, 小川 敏, 中島哲男, 西山 明, 脇田弘幸, 宇野博次, 杉本康雄, 小林正明, 種田幸一, 宮本曉一, 林 英治, 山内久典, 平塚隆一郎, 河井完治, 住吉正光, 平石隆志, 福田一誠, 赤松良紀, 岩附俊郎, 遠藤厚郎, 加藤敬一, 河野 稔, 木村 正, 清原光男, 後藤淳次, 近藤 勉, 酒井成郎, 佐藤 泉, 恒川由雄, 長尾善生, 淵上 直, 前浪祐吾, 南川真理夫, 宮城達夫, 脇田勝広, 相馬紀之, 岡村正登, 椎野雅之, 木村辰雄, 滝塚博志, 稻上泰弘, 村瀬眞道, 河合 宏, 生田 勝, 柴宮勸太郎, 田中義久, 堀田正治, 伊藤敏晴, 澤 嘉也, 山田春雄, 千葉正人, 上田 裕, 戸川 晨, 小出隆昭, 大川 勉, 大岡睦夫, 後藤豊弘, 佐藤 忠,

桜井 登, 長瀬宣道, 松原輝幸, 福田拓藏, 前川憲一, 野島弘治, 上杉順平, 岸 道彦, 城所俊男, 松下 晃, 広瀬義忠, 阿部鉄夫, 飯間 豊, 五十嵐春雄, 石川治, 石野道雄, 伊東和彦, 伊藤良雄, 稲葉精二, 今井雅文, 牛尾 功, 内山 章, 大益憲明, 大宅伊久雄, 奥津直廣, 笠井康志, 金丸洋一, 川合由之, 川上 英, 菊池文彬, 桑原俊明, 小松秀二, 近田喜代治, 坂内保明, 阪田義勝, 佐々木繁博, 佐藤和幸, 佐藤一喜, 篠崎 勉, 清水寿雄, 下市 徹, 神宮司順, 鈴木 純, 鈴木 博, 高瀬純一, 高橋恒治, 武井則之, 武内 惇, 武子博見, 辻 秀幸, 甘楽 寛, 津村和政, 寺前光志, 土門純一, 長井静夫, 永田淳次, 中村孝之, 仲俣義明, 成澤正幸, 西村高一, 長谷川勳, 花嶋憲司, 羽生 明, 林 憲康, 早野靖雄, 日谷 将, 深井文茂, 堀田勝利, 真栄城兼明, 増井武夫, 又木美音男, 松浦哲治, 松田辰己, 三橋和男, 村井則道, 守屋隆夫, 山下満男, 湯澤史典, 若松剛夫, 若柳由紀夫, 中山 茂, 石黒邦男, 馬場常雄, 飽田裕志, 田中万亀男, 下島仁実, 溝口貞雄, 今清水正己, 伊藤 節, 相田潤一, 秦日出男, 山田友博, 榎本重夫, 西幸太郎, 木村和子, 相沢久幸, 相田三典, 青木敬明, 秋吉英憲, 浅川克彦, 浅見明博, 安土 勇, 阿部陳直, 新井寿一, 有阪 勉, 有原 治, 五十嵐五郎, 五十嵐重朗, 伊木俊昭, 生田豊康, 池田清二, 池田廣司, 池田浩之, 石崎新一郎, 磯部保和, 市川一寿, 伊藤裕一, 伊藤洋一, 井野英哉, 井上彰英, 井上秀明, 後田龍之, 内田俊夫, 内田安彦, 鷗沼 洋, 江頭和幸, 江原敬一, 蛭名正幸, 及川欣也, 太田喜雄, 大堀美智雄, 岡 修司, 小笠原明生, 小田 進, 小田弘夫, 小貫舜一, 加治佐清光, 春日広隆, 加藤 洋, 金井吾郎, 金子 成, 狩野博史, 蒲田俊介, 川原 裕, 川村克彦, 神田洋捷, 岸田邦弘, 岸田征信, 岸浪 禅, 木田昌宏, 貴田益吉, 北山 友, 橋高敏文, 木下順三, 木村博司, 久我 隆, 窪田正明, 倉内敏郎, 小犬丸胤信, 高坂泰詔, 小西 彰, 小林昭正, 権田隆一, 今野健, 三枝周康, 齊藤文司, 坂本昭彦, 坂本義三, 先原照夫, 佐藤純一, 佐藤俊二, 佐藤 勝, 汐田教章, 四家精二, 實川裕敏, 清水俊雄, 首藤定次, George Economos, 鈴木隆夫, 鈴木徳重, 関 三郎, 高木貞男, 高野秀夫, 田上東一郎, 武種敏正, 田島 敏, 竜田敏男, 田中唯一, 田中裕一, Charles F. Corrigan, 手嶋邦彦, 戸松隆博, 富田 稔, 豊島雅和, 豊嶋正誼, 内藤在正, 長崎末雄, 中沢正史, 永沢広行, 中嶋博雪, 中田光剛, 中村忠之, 中村昌史, 南雲光彦, 成富勇三, 西尾 健, 西橋幹俊, 西原 豊, 丹羽 肇, 根本志良,

橋爪 等, 長谷川勝彦, 長谷川一, 花井紀行, 林 信宏, 林 護, 林 恭正, 林田雅博, 樋口孝一, 平野勝彦, 広部和之, 福島信雄, 福住修治, 藤元鶴男, 藤原郁雄, 千場敬典, 本田和利, 松岡良兼, 松原 茂, 真弓昌三, 丸山 力, 丸山裕子, 丸山靖之, 三上晃一, 宮崎祀夫, 宮崎碩文, 宮永憲司, 向井俊一, 村井正志, 明午慶一郎, 目黒真一, 森本まこと, 矢崎重男, 安井顕徳, 安井敏雄, 谷野正義, 山 松森, 山尾長次郎, 山口剛夫, 山口秀文, 山崎洋一, 山地 正, 山田明夫, 山田昭夫, 山田秀夫, 大和敏彦, 山根勝司, 横尾 滋, 横川 敬, 横田勝弘, 横田昭一郎, 吉岡善一, 吉田久久, 渡辺 慧, 渡辺勝利, 渡辺悌夫, 渡辺 靖, 渡部元, 島山 章, 西田権四郎, 池田卓司, 鈴木栄則, 飯田 栄, 岡西利郎, 宇都宮芳隆, 森 鉄雄, 岡野真治, 稲田洋一, 崔 炳旭, 高橋正明, 密 信明, 中村豊明, 水元明蔵, 大野政信, 福田忠明, 柳澤 繁, 銀山晴雄, 阪本善徳, 鳥住昭洋, 斉藤 忍, 秋山哲彦, 佐々木孝之, 木幡丈二, 小沼 章, 安藤紀彦, 田畑正彦, 野見山好孝, 谷 和純, 横山義和, 伊藤浩一, 須田慎一郎, 磯崎 澄, 山岸正雄, 濱野 憲, 大泉富士男, 石井久雄, 石渡隆人, 秋山雅俊, 大槻 邁, 青木松雄, 足立潔史, 新井悠一, 粟宮一樹, 飯村睦郎, 石黒義親, 井川昭則, 石木正大, 岩崎敬一, 小田茂司, 小田庸夫, 小野慎也, 笠嶋輝雅, 川上正伸, 神成正夫, 栗山光宣, 小島直之, 小林直弘, 小檜山善隆, 塩谷 譲, 芝原拓也, 関 満男, 高久 薫, 高堂幸一, 竹田正信, 竹辺肇, 田中赳夫, 角田興俊, 中沢 要, 中村茂之, 中村俊顕, 新美二郎, 野田紘意, 萩原慎一, 萩原春彦, 橋本孝久, 蓮村 昭, 久野悌二, 久本卓昭, 平塚邦彦, 藤間正男, 松野康雄, 松林光男, 松村洋一, 水上時雄,

村上恭三, 森田 勲, 山中英敏, 結城明夫, 横山 裕, 佐藤 武, 石原丈行, 大角勝典, 小林和男, 篠田東吾, 谷川 勝, 寺田勝三, 木所聖明, 臼井紀男, 小川和彦, 黒井 暁, 桑原昭夫, 後藤保浩, 坂本正義, 鈴木喜三郎, 園田嘉文, 高橋泰雄, 高村昌彦, 原田令三, 福原一巳, 宮本広行, 和泉信夫, 神原邦正, 藤田道夫, 田邊松太郎, 宮武春雄, 越智 進, 井上昭三, 西川廣美, 長野敏郎, 越智 司, 笠井敏夫, 森田英夫, 米畑 篤, 岡本光曜, 土屋惣太郎 (以上 940 名)

【学生会員】矢島宏明 (以上 1 名)

### 採 録 原 稿

昭和 54 年 2 月の論文誌委員会で採録された論文およびショートノートは次のとおりです (カッコ内は寄稿年月日).

#### 論 文

- ▷出口光一郎, 森下 巖, 小笠原 司, 小野 輝, 平沢 裕, 渡辺 淳: 単一バス同期データ交換型マルチコンピュータシステムの高効率化 (53. 10. 24)
- ▷安部城一, 坂村 健, 坂前和市, 相磯秀夫: 総合デバッグ時の PB 曲線の性質について (53. 8. 11)
- ▷米田 茂, 山口康隆: 汎用 DBMS の性能推定システム (53. 10. 17)
- ▷紫合 治, 藤林信也, 岩元栄二: 高信頼性ソフトウェア開発のためのプログラミングシステム (53. 7. 10)

#### ショートノート

- ▷瀬口靖幸, 冨田佳宏, 橋本 親: 条件数の近似評価について (最適な有限要素分割を定める問題に関連して) (53. 6. 22)

## 昭和 53 年度役員

会 長 穂坂 衛  
 副 会 長 尾関雅則 坂井利之  
 常 務 理 事 井上誠一 田中幸吉 中田育男  
 嶋村和也 川端久喜 山田尚勇  
 理 事 筑後道夫 稲田伸一 榎本 肇  
 後藤英一 矢島脩三 石井善昭  
 首藤 勝 木村 豊 近谷英昭  
 三浦大亮  
 監 事 大島信太郎 関口良雅  
 関西支部長 植田義明  
 東北支部長 佐藤利三郎

田村浩一郎 辻 尚史 戸川隼人  
 仲瀬 熙 西木俊彦 野末尚次  
 箱崎勝也 発田 弘 原田賢一  
 藤田輝昭 前川 守 益田隆司  
 三木杉生 宮岡健次 柳沢啓二  
 山崎清明 山本毅雄 弓場敏嗣  
 吉田 清 吉村一馬 米田英一  
 渡辺隼郎

## 論 文 誌 委 員 会

担当常務理事 田中幸吉  
 担 当 理 事 首藤 勝  
 委 員 内田俊一 片山卓也 名取 亮  
 古川康一 三上 徹 村上国男  
 山下真一郎

## 会 誌 委 員 会

担当常務理事 中田育男 田中幸吉  
 担 当 理 事 榎本 肇  
 委 員 相曾益雄 井田哲雄 池田嘉彦  
 石原誠一郎 小野欽司 鍛冶勝三  
 菊池光昭 倉持矩忠 小林光夫  
 佐藤昌貞 斉藤久太 坂倉正純  
 椎野 努 志村正道 白井良明  
 杉本正勝 鈴木久子 関本彰次  
 高井 啓 武市正人 竹内郁雄  
 竹内 修 田中英彦 田中穂積

## 文 献 ニ ュ ー ス 小 委 員 会

委 員 長 箱崎勝也  
 副 委 員 長 小林光夫  
 委 員 秋山 登 雨宮貞人 岩田茂樹  
 近藤隆志 杉原厚吉 鈴木健二  
 塚本享治 寺沢晴夫 徳田雄洋  
 永田守男 中山信行 新田義彦  
 長谷川洋 原田公一 牧野武則  
 毛利友治 山田真一 吉田 浩